

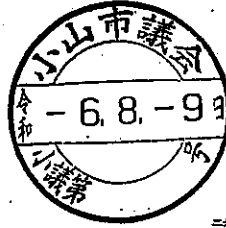
視察調査・研修会等報告書

令和 6 年 8 月 9 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長

様



議員氏名(土方美代)

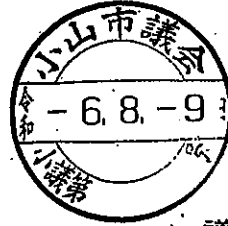
研修・視察日時	令和 6 年 8 月 6 日
研修会場・視察先	青更市役所 ふれあい教室
研修名・視察目的	不登校支援
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	北海道青更市議会議員 高瀬博文 青更市議会議務局長 [redacted] 教育推進係 [redacted] 学校教育部長 [redacted] 学校教育課長 [redacted]
参加議員(同行者)	折部勉 永田健一朗 土方美代
調査概要	別紙 1
市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等	近隣自治体から力を受け入れることとした経緯は、もとより帯広市(地区)が3つの市・町に分かれた認識なので、定住自立圏の様な考えではなく、何でか一緒に事業をすすめるのが普通のこと。不登校支援の特長は、保護者の愚痴や相談にも丁寧になることにより、家庭内の環境が良くなる。今後の課題として中学卒業後の追跡まで至る中で、大人のまきこりにつながらない様に支援する必要がある。小山市が卒業後の伴走型支援をとり組むことにより、将来の生活保護者の減少につながるのを感じた。

視察調査・研修会等報告書

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長

様



令和 6 年 8 月 9 日

議員氏名(土方美代)

研修・視察日時	令和 6 年 8 月 7 日
研修会場・視察先	池田町役場・池田ワイン城
研修名・視察目的	観光資源としての活用 行政直営(かせげる行政について)
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	池田町議会議長 [REDACTED] 池田町議会事務局長 [REDACTED] 池田町ブドウ・ブドウ酒研究所 宮本 謙 氏 [REDACTED]
参加議員(同行者)	外部 勉・永田健一郎・土方美代
調査概要	別紙 1
市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等	公共交通とワイン城の完結が観光事業に大きくかかっているのではないかと考えていたが結果論、駅が近かっただけで建設当時は何も考えていなかったとのこと。1つの事業に一極集中することによって後方どりできない状態も作り出し、はじめて日本一ブランドが出来ると感じました。すばらしい取り組みは、搾み生にブドウを収穫させ成人式にその時収穫した出来たワインをプレゼントすることで郷土愛が強くなること。小山でも米やイチゴで同じことかできるのではないかと期待する

視察調査・研修会等報告書

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長

様



令和 6 年 8 月 9 日

議員氏名(土佐美代)

研修・視察日時	令和 6 年 8 月 8 日
研修会場・視察先	釧路市 鶴公園
研修名・視察目的	丹頂鶴自然公園の運営の工夫等 観光資源としての活かし方
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	釧路市公園緑化協会事務局長 [REDACTED]
参加議員(同行者)	荻部 勉、永田健一郎、土佐美代
調査概要	別紙 1、2
市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等	<p>当市のゴウトリは、いつでも見に行けて会える訳ではなく、 いる時といない時、会える時と会えない時がある為観光と しては弱く、一部のマニアしか需要がない。鶴公園は 2mの柵を飛び越えない様に羽を切っている為、動物園 の様にいつでも会えるのが強み。鶴とゴウトリは食餌 も体の大きさも類似している為、環境整備に因して は大変参考になった。夕又キヤイノシシから守る 為に地下/地上2mの電気柵やキツねし その他エサ箱の形を変えることにより、他の動物から守る 工夫を取り入れるべき。</p>

1 視察地及び目的

(1) 音更町・音更町教育支援センター

町内2箇所に教育支援センターがある。NPO法人に一部運営を委託。個別指導、小集団指導どちらも取り入れ、きめ細やかな支援をしている。

これらの運営の特徴を学び、今後の小山市の不登校支援の参考にする。

(2) 池田町・池田ワイン城

昭和49年から、池田駅徒歩圏内の「池田ワイン城」(現在は一般社団法人運営)を観光資源として活用している。

種類は異なるが、アルコール類を観光資源として長年にわたり活用する方法、鉄道利用客を呼び込む工夫等を視察し、酒蔵が多く地ビールも開発されている小山市の観光振興の参考とする。

(3) 釧路市役所・釧路丹頂鶴公園

観光資源としての丹頂鶴の活かし方、丹頂鶴自然公園の運営の工夫等を学び、小山市における観光資源としてのコウノトリや渡良瀬遊水池の活用につなげる。

2 行程案

【第1日・8月6日】

小山 9:18—(やまびこ208号)—東京 9:59/10:07—品川 10:20/10:27—
羽田空港 10:49 11:50—(ANA4765・機内で昼食)—帯広空港 13:25 13:40—
音更大通11丁目 14:42 14:50—(タクシー)—ふれあい教室 15:00
〔ふれあい教室視察〕16:45—中士幌4号 16:50 17:02—
帯広駅前 17:40 《ホテルパコ帯広駅前 泊》

【第2日・8月7日】

帯広 10:26—池田 10:52〔工場説明・昼食・ワイン城視察〕14:34
—(おおぞら5号)—釧路 15:50 《ホテルルートイン釧路 泊》

【第3日・8月8日】

釧路駅 10:17—鶴公園 11:05〔鶴公園視察・昼食〕13:45—(タクシー)
釧路空港 13:50 14:40※—(JAL542)—羽田空港 16:25 17:00—
品川 17:23/17:33—東京 17:41/18:08—(なすの265号)—18:49
※航空券残席数・運賃の関係で、永田のみ釧路 18:30—(ANA4774)—羽田 20:15

視察にあたっての質問事項

【音更町教育支援センター】

- ①町内に2つの教育支援センターを設けた理由を教えてください。
- ②柳町教室をNPO法人に委託した経緯を教えてください。
- ③差し支えない範囲で、町の一般会計予算に占める教育費の割合、教育費に占める教育支援センター関係経費の割合を教えてください。
- ④音更町だけでなく近隣自治体からも受け入れることとした経緯を教えてください。
- ⑤どちらの教室もバス停から徒歩圏内ですが、通学の利便性を考慮してそのようにしたのか、様々な要素を勘案して場所を決めた結果たまたまそのようになったのか、どちらでしょうか。
- ⑥二つの教室がどのように連携しあっているのか、教えてください。
- ⑦差し支えない範囲で、利用者の声、卒業生の声をいくつか御紹介いただけますでしょうか。

～追加質問～

- (a)教育支援センターの目的として「自立していける力を養う」がありますが、これは学校復帰を前提としたものでしょうか？学校復帰とは直接関係なく、一般的な「世の中で生きていく力」ということでしょうか？
- (b)教育支援センターの「個別指導」と「小集団指導」は、入級した児童・生徒自身が選択するのでしょうか？保護者や担当の先生を交えて面談等した上で決定するのでしょうか？
- (c)ふれあい教室への通級でも、出席扱いになるのでしょうか？仮にならない場合、教育支援センターへの通級との考え方の違いを教えてください。
- (d)「ほっとオンライン」に関する以下の点についてお聞かせください。
 - ・この取り組みを始めた経緯
 - ・利用実績、順番待ちの度合い
 - ・ほっとオンライン利用後のふれあい教室や教育支援センターとの連携
 - ・(差し支えなければ)利用者の声

【池田ワイン城】

- ① 駅から徒歩圏内であるのは、鉄道利用の観光客を意識した結果でしょうか。
- ② 池北線やちほく高原鉄道があった頃、「次の列車までの待ち時間でワイン城に来た」というお客さまはどれくらいいたか、わかりますか。
- ③ 自治体がアルコール類をメインとする施設を運営するにあたり、気をつけている点がありますか。(例：レストランでの飲み過ぎ防止のための提供酒量制限、酒類販売時の年齢確認徹底など)
- ④ ワインが苦手な大人や未成年者もワイン城を楽しめるよう配慮していることはありますか。
- ⑤ 令和4年度のデータによれば、事業収益と営業収益に約7,000万円の差がありますが、どのようなものが事業収入になっているのでしょうか。

【釧路市丹頂鶴公園】

- ① 鶴の生息地に公園を作ったのか、公園を作る際に鶴を連れてきたのか、どちらでしょうか。
- ② 釧路空港から近いので、観光客をどのように呼び込んでいますか？
また、鉄道利用の観光客としては駅から遠いですが、呼び込みで工夫していることはありますか？
- ③ 来園客の平均的な滞在時間はわかりますか？
- ④ 近隣の観光施設(丹頂の里、山花温泉リフレ等)と、相互誘客等何か連携を図っていますか？
- ⑤ 鶴の飼育に関わる方々は、市職員でしょうか、外部委託でしょうか。また、市職員の場合は専門職になると思いますが、人材確保、育成、他の職員との給与や人事評定のバランスをどのようにとっているのか、差し支えない範囲で教えてください。

視察調査・研修会等報告書

令和 6 年 10 月 15 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長

様



議員氏名(土方美代)

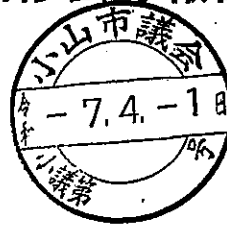
)

研修・視察年月日	令和 6 年 10 月 9 日から令和 6 年 10 月 11 日まで
研修会場・視察先	トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)
研修名・視察目的	第19回 全国市議会議長会研究フォーラム 「地方議会の課題と主権者教育」
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	静岡大学人文社会科社会学部法学科教授 井柳美紀 法政大学法学部教授 土山希美枝 一般社団法人 Wander EDUCATION 代表理事 越智大貴 読売新聞東京本社教育ネットワ ーク事務局 渡辺 嘉久 盛岡市議会議長 遠藤政幸
参加議員(同行者)	なし
調査概要	全国的に、人口減少・議員のなり手不足・投票率の低下・政治への関心の低さが課題とされている。その課題解決の一環として、高校生の模擬議会や傍聴、模擬投票などを疑似体験させ、子どもたちに自分たちが世の中を変えられる主権者の一人だと認識してもらおう。このような取り組みは、対象が小中学生だったり、年齢や職業を問わない夜間高校であったりと様々だが、政治に関心を持ってもらい、生の議員と関わることによって議会を身近なものに感じてもらうなど、主権者教育というよりは、議会の広報活動のように思えてならなかった。主権者教育とは民主主義の根幹であると言っている割には、投票率を上げたいのも議員側。まだ色のついていない将来の有権者に対し好感度をあげたいのも議員側。そもそも議会というものに、教育をする権限や、または誰かを教育する、政治を教えるという機能を持っているのか疑わしい。議会は 2 元代表制に基づき市民の負託にこたえ、行政の政策や執行状況をチェックしたり、条例などのルールをつくり、市民の声を代弁して政策提案していくもの。どこにも主権者教育というものは入ってこない。ただ、学校教育では政治に関することや、主権者教育となると先生個人の主観が入ってしまうため教えづらいとの声もいまだに残っている。では、誰が主権者教育を行うべきなのか。親なのか、学校なのか、マスコミなど社会なのか。

視察調査・研修会等報告書

	<p>もう一方で、別の疑問も抱いていた。主権者教育というとほとんどが、選挙に行きましょう！という内容が多く見受けられる。なぜ立候補してみよう！ではないのだ。結論から言って、今の主権者教育は、主催者によって、主催者側の意図があって、主催者の為の主権者教育になっているように私は感じる。誰のための主権者教育なのか？そのことを見誤っては絶対にいけないと思う。</p>
<p style="text-align: center;">市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>小山市でも模擬議会や議会報告会などをおこなっているが、参加される生徒さんが、学校から選ばれた生徒会の生徒さんだけというのも違和感を感じる。質問に対し、正解を求め、また、正論や建前を知識としてインプットされている感は否めない。</p> <p>主権者教育のパイオニアは政治塾だろう。各政党ごとに今では政治塾が無数にある。若者を時間をかけて自分の政党色に染めていくことが目的なのだろうが、このシステム自体は素晴らしい。もしこれが、行政のような完全に中立な機関が「政治塾」を開催したら、どうなるのだろうか。本気で政治を考え、自分に何ができるのか、自分ならどうするのか、仲間と議論(リベート)する。ちゃんと考え、ちゃんと揉める。そして自ら治めるから「自治」なのではないのか。</p> <p>そのような場を与えることが、それこそ本当の主権者教育になるのではないのか。但し、入塾希望者がどれだけいるのかが最大の課題である。</p>

視察調査・研修会等報告書



令和 7 年 4 月 1 日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎佳之 様

議員氏名(土方美代)

研修・視察日時	令和 7 年 3 月 29 日 ~ 3 月 31 日
研修会場・視察先	NPO ほほらセンター 宇都宮まちづくりセンター まちぴあ
研修名・視察目的	森林管理士養成講座
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	
参加議員(同行者)	
調査概要	別紙 1
市政の課題等に対し どのように参考になるか 所感等	別紙 1

視察調査・研修会等報告書

平地林保全の必要性を考える

森林管理士は森林の持つ多様な機能や良質な木材の持続的な生産を両立させるために専門的な知識と技能を持つ人たちで、環境保護や持続可能な資源管理を長期的ビジョンで計画をたてるのに寄与してまいります。講座では以下のような多岐にわたるテーマが取り扱われました。

地球温暖化防止のための森林の役割：森林が持つ二酸化炭素の吸収機能や気候変動への対処能力について

危険木の目視による調査方法：森林の健康状態を評価するための実践的な調査手法を学びました

癒し効果を発揮する森づくり：森林浴やレクリエーションとしての森林の重要性、どのくらいのストレス軽減効果があるのかを考察しました

二酸化炭素吸収量の測定方法：定量的なデータを用いて計算する方法を学びました

防災の役割：地すべり等の植物が土壌の保護や水の浸透を促し、洪水や土砂災害のリスク軽減する役割について

水質保全の役割や生物多様性など

特に印象に残ったポイントは、森林の成長と伐採のタイミングの違いについての話です。木は50年、100年、さらに300年という長い年月を掛けて成長する

一方で伐採はわずか3分で終了してしまう現実。そのため伐採後に苗木を植えるすぐには森には戻らないことが強調されました。さらに

森林と人間の共存についても深く考えさせられました。森林を守る目的がその時々で異なることが勘察されるべきです。木材の生産、バイオス

燃料の取得、安らぎを与えるレクリエーション、生物多様性の保護、さらには防災や水質保全など、目的によらず、伐採しなけりゃいけない樹木も植樹しなけりゃいけない樹木も、変わっていくということです。

どのような目的で、平地林を保全していきたいのか、持続可能な森づくりに多角的な視点が不可欠であり、人間のサイクルと樹木のサイクルは10倍の差があることを忘れず、長期的な計画を

たてるのが、今を生きる私たちの責任です。